



おしえの花束

雲晴

秋彼岸号

「雲晴」第十六号

平成二十七年九月一日発行

貞林院瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五
電話(〇三三)三六二七―三四一一
FAX(〇三三)五六九九―五九一五



趣味のある人生は楽し

最近では合理的な生活がすっかり板についたせいか、ゆとりのある人がずいぶんと多くなりました。そのためか、スポーツ、音楽、釣り、ありとあらゆる趣味、レジャーが盛んです。とにかく人間、好きなことに打ち込めるときは、健康であり幸せです。好きなことにとらわれるということが、だいたいの趣味なのでしょう。

結論からいえば、好きなことに没入できる人は人生が楽しく、生活もリズムに乗ってかなり調子がよいということです。

ところが趣味というのは、仕事とか家庭での用事などに追われていると、二の次、三の次と思われがちです。よく仕事ひと筋、家事ひと筋

で人生の大半を過ごした人が、退職したり世代が代わって手持ち無沙汰になると、生きがいを見失って急にふけ込んでしまうことがあります。そんな現象を見ていると、趣味を単なる娯楽と考え、軽く見ていた誤りがわかります。仕事も人づき合いも趣味もすべて同じレベルで大切です。それらが互いにかみ合っていればこそ、人生がうまく回転しているのではないのでしょうか。

さて、ひと口に趣味といっても、人それぞれに顔が異なるように、趣味も一人一人その味わい方が違っていいはず。好きなことを自分にやるわけですから、当然それぞれに趣味は異なるはず。誰にも遠慮、気がねはいらないわけですから、これは楽しいはず。極端にいえば、たとえ家族がその価値を認めなくても自分が本心好きならば、それに打ち込むことは実に正直であり、素直な姿であると思えます。正直な自分がどこにあるかをしっかりとつかまえることが積極的な生き方であり、悔いのない人生でもありましょう。

好きなことをやるために、せっせと仕事に精を出すか、好きなことをやって気持ちさをたっぷりさせてから仕事に取り組むか。仕事に生き、趣味に生き、これができれば人生の醍醐味といえるでしょう。

また幼い頃の事ですが古い本堂へ入ると、かもしの上によくの写真が掛けてありました。始めは何だかわからなかったのですが、年が経つにつれそれが何かわかりました。先の大戦で亡く

●鎮魂(戦後七十年によせて)

●西門寺住職 島崎義宣

なった人達の遺影でありました。それも二十歳前後の人々の写真が多くありました。今ではその写真もはずされ、新本堂の阿弥陀様の下部に納めてあります。

英霊は靖国神社に祀られ多くの関係者の参拝を受けております。私は戦後生まれですがまだ正式に参拝した事はありません。毎年靖国神社では魂祭と称して鎮魂の祭祀が盛大に行われてお

トラブルが発生しているとの事。泉下で眠る多くの英霊に何と云って良いかわかりません。申し訳ない気持ちでいっぱいでありませう。

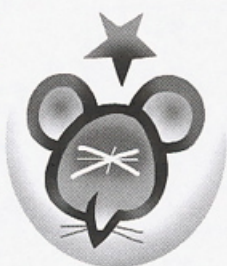
今の、中高生で太平洋戦争の事を詳しく知っている子はあまりいないようで、学校の歴史の授業で知っている位だそうです。この戦争の事実を多くの若者に知って頂くよう務めて行かなくては成らないと思います。

もうすぐ秋の彼岸です。鎮魂の想いを菩提寺の阿弥陀様をお願いしてみても如何でしょうか。



民話の小箱 (秋田県)

おネズミがお死んでる ●おったまげ



むかしむかし、あるいなかの娘さんが、町のお金持ちの家へ働きに行きました。

でも、いなかで育った娘さんは、ていねいな言葉をうまく使うことができません。

お客さんにお茶を出すときも、

「茶を飲め」

などというので、お金持ちのおかみ

さんは困ってしまいました。

そこで娘さんに、

「お客さんには、ていねいな言葉を使わなくてははいけません。何でも言葉のはじめに『お』という字をつけて言いなさい。そうすれば、ていねいな言葉になりますよ」と注意したのです。

(茶に『お』をつければ、お茶。な

るほど、『お』という字をつけばいいんだな)

それから、娘さんは、いろいろな言葉に、『お』という字をつけてみました。

ネコは↓おネコ、カラスは↓おカラス、カボチャは↓おカボチャ。

(これで、もうだいじょうぶ)

むすめさんは、『お』という言葉をも早く使いたくてたまりません。

家の前でウロウロしていたら、ネズミがドブに落ちて死んでいました。

娘さんはさつそく、おかみさんの部屋にかけつけて、

一口法話



幸せに生きる道

以前インドを訪れた時、現地のガイドが「日本では、迷惑をかけてはいけないと子どもに教えるそうだが、インドでは、私達はまわりに迷惑をかけて生きているのだからその迷惑をかけているもの達に報いるような生き方をしなさいと教えられた。」と言うのです。

「迷惑をかけてはいけない」と教えるということは、今現在、何も迷惑をかけていないという思い上がりであり、「迷惑をかけているから報いる生き方をするように」と教えるのは、自らを見つめ、過去を内省する中での生活があるように感じます。

最近、我が子がどんなに騒いでいても、注意もせず放つたらかしの親も多くみられ、そんな親の無責任な姿が、今日のいじめ問題や身勝手な犯罪に多大な影響があるように感じます。

誘いの書へ

「おおかみさん、おネズミがおどぶに落ちてお死んでる」と、言いました。

おかみさんと一緒にいたお客さんは、それを聞いて大笑いです。

お客さんが帰ったあと、おかみさんは娘さんに言いました。

「何でもかんでも、『お』という字をつけてはなりません。役にたつきだけ、『お』の字をつけなさい」

(そうか役にたつときだけか) さてその晩のこと。

お金持ちの家族が晩ご飯を食べているところへ、娘さんがおみそしるを運んできました。

ふとおかみさんを見ると、おでこに、



「日月摩尼」 故林 錦洞書

貞林院瑞正寺 住職 林 清方



おひたしのなつばがついています。そこで娘さんは大声でいいました。「かみさん、でこにひたしのなつばがついて、かしいだよ」

(……ああ、この娘にはなんといいたらわかるのだろう)

おかみさんはガツカリして、「そういうときは、『おかみさん、おでこにおひたしのなつばがついておかしいですよ』と言うんですよ」と、言い聞かせました。

すると娘さんは、ニッコリわらって、「おやっぱり『お』の字をおつけたほうが、おいしいんだべ」といったのです。

おしまい

隷書で書かれた作品で「日月摩尼」と読み、日(太陽)と月と摩尼(宝石)の輝きという意味です。

浄土宗の根本經典の一つ「無量寿經」の中に仏さまを讃歌する「歎

仏頌」という一節があり、この言葉が出てきます。

出だしの一節には「仏さまのお姿はまぶしく徳は限りなく、その光は太陽や月やどんな宝石の輝きも霞んでしまう」と書かれています。

さて今年も中秋の名月の時期と

隠れるように真理も隠れてしまっ

たりますが、円満無欠の月はよくお釈迦さまの徳に例えられて拝まれたりします。また歌舞伎で有名な弁慶の勸進帳の中には「大恩教主の秋の月は、涅槃の雲に隠れ生死長夜の長き夢驚かすべき人もなし」という台詞があります。意味は「お釈迦さまが説かれる仏法は秋の月のように世の中を明るく照らしていたが、既に涅槃に入ってしまった(亡くなってしまい)それを説く人もいなくなったため、月が雲に隠れるように真理も隠れてしまっ

お釈迦様は「自らを見つめ、まわりのすべての人々に感謝と報恩の心で、二世(この世、そして後の世)かけての幸せを求めて生きていくように」とお勧めくださいました。しかし実際は、「我」を押し通し、自分の都合で良し悪しの判断をしてしまい、自分が迷惑をかけている事に反省どころか、気づくことさえ出来ぬ私達であります。

法然上人は、そんな私達が、二世を通して幸せになれる道を懸命に探してくださいました。その道こそ口に「南無阿弥陀仏」と称えさせて頂く道であり、このお念仏の日暮らしこそが間違いない。幸せに生きる道なのです。

総本山知恩院布教師会ホームページより

ている。人生は仏法を知って悟りを開かねば、生と死という長い夜に夢を見ているようなものであるが、今やその仏法を説いて眠りから覚ましてくれる人もいない。実に迷い多き辛い世の中である」というものです。

正に現代の世相を象徴しているかのようなです。

秋のお彼岸中には日月摩尼より有難い仏さまの光に感謝してお念仏をお称えしましょう。

秋の彼岸法要のご案内

秋の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

九月二十三日(水) 正午より

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料 三千元
回向料(お布施) 志納

「終戦七十年戦没者

慰霊法要のご案内」

本年は終戦から七十年を迎えます。戦死された軍人をはじめ空襲などで犠牲になった多くの一般人の方々に対し慰霊を行うものです。

彼岸法要に併せて行いますので、先祖代々のご供養の他に戦没者等のご供養をご希望の方は戒名を寺までお知らせください。当日特別に回向いたします。なお回向料は志納となっております。

「山門の塀全面改修

駐車場整備が完了」

本年五月の施餓鬼法要の翌日より始めました山門の塀全面改修及び駐車場の整備が完了しました。塀につきましては大谷石の老朽化が激しいため全面改修したもので、駐車場につきましては電話ボックスを撤去して駐車台数の確保と新たに車イス専用の駐車スペースを設けました。約二か月間の工事でご不便をおかけしましたが、お蔭様で山門前も明るく

なり檀信徒の皆さまにも喜んで頂いております。



「山門前が明るくスッキリしました」

この度の整備事業につきましては既にお伝えしたとおり、本年十月に先代錦洞政方上人の七回忌を迎えるにあたり、その追善供養の為に行ったものです。先代は常々「寺は境内も本堂もいつも清掃し整えておくように」と言っておりました。今後もよりバリアフリー化を充実させ、気持ち良く安心してお参りできる寺づくりを目指してゆきたいと思っております。

りますので檀信徒の皆様のご理解とご協力をお願いします。

◇これも仏教用語なの？◇

「しゃかりき」

「しゃかりきに頑張る」などと使われるこの言葉は「釈迦力」と書き、お釈迦さまの力という意味になります。

お釈迦さまが人々のために懸命に力を発揮しているお姿を見て、この言葉が生まれたのかもしれない。

お釈迦さまが悟りを開いた後に初めて説いた法話のことを「初転法輪」といいます。「転法輪」とはもともと古代インドの戦車のことであり、戦車が走りその車輪で敵を蹴散らすように、お釈迦さまの教えが次々人々の間を駆け巡り、迷いを打ち破る様子とその偉大な力を畏敬の念を込めて「釈迦力」と呼んだのでしよう。

